

高齢者と乳幼児の健康増進のために

高齢者用肺炎球菌ワクチン等の接種の実施と助成を

梶田稔議員は、3月7日、町政に関する 拡充と入札制度の改善について、次のよう一般質問を行い、予防ワクチン接種事業の に町当局の見解をいただきました。

高齢者の肺炎による死亡率は第4位

梶田稔議員質問 住民の強い要望に応えて、子宮頸がん

ワクチンやヒブ、小児用肺炎球菌ワクチン接種事業が始められましたが、高齢者用肺炎球菌ワクチンの接種助成事業は見送られました。

高齢者用肺炎球菌ワクチン接種事業について、未だに実施する計画を持っていないのは知多5市5町のうち武豊町と南知多町だけとなっています。

肺炎は、日本人の死亡の第4位に挙げられており、高齢者では加齢に伴い免疫機能が低下し、細菌性の肺炎に罹り

やすくなると言われています。

高齢者の長寿・健康増進のためにも、高齢者用肺炎球菌ワクチン接種事業を、本町においても実施するよう強く求めます。

また、ロタウイルスによる胃腸炎は、冬から春にかけて乳幼児を中心に流行し、下痢や発熱などを発症するもので、重症化するのを防ぐためにも予防ワクチンの接種が有効とされ、名古屋市では平成24年度から助成措置を講じて推進すると報じられています。

幼児は、一週間近く下痢や嘔吐が続くことが多く、ノロなど他のウイルス性胃腸炎より症状が重い上、長引く場合が多く、まれに脳症やけいれんなどの合併症が起きることもあると言われています。

一般質問を行う梶田稔議員（3月7日）質問及び答弁の全文、議会審議の様子は、下記のホームページをご覧ください。
<http://www.kajita-m.jp>

日本では、毎年約80万人の乳幼児がロタウイルス胃腸炎で受診し、その約1割が入院し、死亡例もあります。ぜひ、本町でも乳幼児の健康のために、

ぜひ、実施されたい。

方向性については研究したい

答弁（厚生部長） 厚生労働

事後審査型一般競争入札中心を改め

地元業者優先の指名競争入札に

町発注の公共工事は地元業者に

梶田稔議員質問 長引く不況の中で、中小業者の暮らしも営業も、かつてなく厳しい状況に置かれています。

平成23年度の武豊町入札参加資格申請者（建設工事）は県内外を含めて1102社にのぼり、そのうち町内業者は31社。

この31社にアンケートを送って、現在の武豊町の入札制度についておたずねしたところ、「せめて町発注の公共工事は、地元業者に請け負わせてほしい。」という切実な声が多く寄せられました。

武豊町の入札制度は、事後審査型一般競争入札が主体となっています。知多地方5市5町の入札制

省では、水痘、おたふく風邪、B型肝炎、成人用肺炎球菌の4ワクチンについて、定期接種の必要性について検討するとしています。

高齢者に対し、各種の福祉施策をトータルとして推進しており、財政的な見地も踏まえ、県下の状況や近隣市町の動向、費用負担のあり方や対象等も含め、検証してみたい。

その方向性については、前

向きに見極めて参りたい。

5歳までのロタウイルス予防ワクチンの接種についても、国の動向等も踏まえて、その方向性について研究してみたい。



度の実態を見てみますと、武豊町と同じく主として事後審査型一般競争入札をとっているのは、武豊町のほか東浦町と阿久比町の3町だけとなっており、他の5市2町は指名競争入札主体となっています。

武豊町も、現行の事後審査型一般競争入札主体の入札制度を改め、地元貢献度を配慮した指名競争入札制度にして、町内業者が町発注の公共工事を請け負いやすく改善されたい。

また、町内業者同士のJ Vの受注を可能にするよう、入札実施要領等を改訂されたい。

地元業者落札は95%以上

なお、工事金額の小さい事後審査型においては、多くの町内業者が単体で参加している。

答弁（町長）平成23年度の実績では、発注工事53件のうち45件を事後審査型で実施し、町内業者がその45件中43件を

答弁（総務部長）J Vによる入札参加については、予定価格がおおむね1億5千万円以上の制限付き一般競争入札において、第二構成員が町内業者である場合に限って参加を認めている。

